

吉岡政和 対談  
企画

## 吉井竜二



お二人は政治家の他に、経営者としての顔もお持ちです。そのメリットとは何でしょうか？

僕は市議に当選後の33歳で介護事業を起業し、昨年退職するまで10年間経営してきました。従業員の給料を捻出しないといけないとか、しんどくても利用者さんや従業員の家族のことを考えると辞められないとか、様々な苦労もありましたが、優秀なスタッフに恵まれることで事業を継続することができました。民間の経営感覚を磨くことができたのと、組織における人の大切さを学ぶことができたのは大きな財産です。

吉岡

吉井

今でも昼は議員、夜は経営者なので、正直遊ぶ時間はありません。ただ、お金のために議員をする必要がないため保身を考える必要がなく、媚びない政治ができると思っています。今は「教育こども常任委員会」での活動に力を入れています。政治家として、とことん思い切ったことをやっていきたいです。



では、経営者の視点から今の西宮市の課題を分析してください。

西宮市の平成28年度決算を見ると、経常収支比率が95.9%（前年度より2.1ポイント悪化）となっています。これを家計に例えると、収入40万円の場合、食費やローン返済など使い道の決まった支払いの割合が95.9%（38万3600円）なので、残り4.1%（1万6400円）しか自由に使えません。県内でも同じ中核市の姫路市では、経常収支比率が86.1%なので13.9%（5万5600円）も家計にゆとりがあります。今の西宮は自主財源をもっと確保していくことが大事です。経済政策を積極的に打ち出していくべきでしょう。

吉岡

吉井

西宮はこれだけ大きな街でありながら、財政的には身動きができない状況にあります。「財源がないからできない」ということも多く、予算案や決算をみても硬直しているのが現状です。経営者の感覚からすると、収益を上げるための投資がもっと必要で、できることは沢山あると感じています。



今村市長が辞任しました。今後の市政について期待することをお聞かせください。

吉井

市長はまちの経営者です。経営者は人に任せて、人を動かしていく責任があります。だから経営者としてより優れた方が市長となり、約3700人の職員が組織全体で効率的に機能し、最高のパフォーマンスを出している姿を、ぜひ見たいです。私は政治家としてもまだまだ若輩者ですが、西宮のために市議会議員としてできる限りのことに挑戦していきます。

市長の責任は大変重く、言わば約3700人の社員を抱える大企業の社長です。そして市の事業は、県内第三位の人口約49万人のお一人おひとりに影響していきます。硬直した財政を是正し、常に10年後、20年後を見据えて、誰もが安心して住み続けられるまち、「選ばれつつけるまち、西宮」となるよう、早急に市政改革を進める必要があります。議員を辞した身ですが、これからも西宮の未来のために活動していきます。

吉岡



ありがとうございました。それぞれの立場から西宮をもっと良くするために、日々活動を続けられるとのこと、大変頼もしい限りです。We Love Nishinomiya はこれからも二人の活動を応援していきます。